

子ども多文化共生センター通信(テラたま通信)

Multicultural Children's Center News

第90号

発行元 子ども多文化共生センター (Tel. 0797-35-4537)

発行日 2024(令和6)年3月25日(月)

ホームページ <http://www.hyogo-c.ed.jp/~mc-center/>

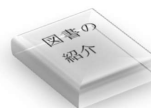


テラたま
(イメージキャラクター)

2023年度も早いもので残りあとわずかとなりました。県内の卒業を迎えた子どもたちは、様々な思いと期待を胸に母校を巣立っていったのではないのでしょうか。被災地・能登においても、親元を離れて集団避難していた子どもたちが地元に戻り、卒業を迎えられました。しかし、多くの子どもたちが、通常の学校生活を送っていません。被災地の一刻も早い復旧、復興を願っています。さて、「やさしい日本語」を知っていますか。「やさしい日本語」とは、外国人等にもわかるように配慮して、簡単にした日本語のことです。阪神・淡路大震災では、多くの外国人も被害を受けました。その中には、日本語も英語も十分に理解できず、必要な情報を受け取ることができない人もいました。そこで、そうした人達が災害発生時に適切な行動をとれるように考え出されたのが「やさしい日本語」です。災害時のみならず、日本人と外国人が地域で共に暮らし活躍していく多文化共生社会の実現には、お互いに歩み寄りながらコミュニケーションを取る「やさしい日本語」の活用が重要です。日本語を使うときに、「相手は知らないかもしれない」ということを想定して説明したり、自分の文化を理解してもらうために伝え方を工夫したりすることは、外国にルーツをもつ子どもたちだけではなく、日本の子どもたちにとっても、コミュニケーション能力を高めるために重要な経験になります。多文化共生社会を実現するために、学校教育に「やさしい日本語」を活用してみたいはいかがでしょうか。

『文化的・言語的に多様な子ども(CLD児)支援のためのガイドブック -日本語教育と特別支援教育の統合をめざして-』

(鈴木ゆみ編著 (株)風間書房 2023年3月31日初版第1刷発行)



2019年に外国籍の児童生徒の特別支援学級の在籍率が通常の2倍であるという記事が新聞に載った。その理由の一つとして、日本語の理解が十分ではないため知的障害と判断されているのではないかというのである。一体その背景には何があるのだろうか。その一つに、日本語指導のシステムが十分に構築されていないという点が考えられる。この本は文化的・言語的に多様な子ども(CLD児(Culturally and Linguistically Diverse children))に関する基本的な知識と情報を、言語的・発達の・心理的な観点からまとめており、CLD児への日本語指導のシステムの構築の必要性が叫ばれている現在、帰国・外国人児童生徒に関わる教員、支援者に、貴重なヒントを与えてくれるとともに今後の指導に大いに参考になる一冊である。

2023年度多言語相談員派遣事業を振り返って

今年度5年目になる多言語相談員派遣事業ですが、おかげさまで、県内のたくさんの小中高、特別支援学校に多言語相談員を派遣し、来日間もない、日本語の理解が十分でない保護者の方を支援させていただきました。この事業は、保護者面談、教育相談等、保護者への通訳を必要とする場面に、子ども多文化共生サポーターのうち、派遣を希望する方を「多言語相談員」として、県内の通訳を必要とする学校へ派遣させていただくものです。ただ、10、11月は諸事情により、派遣を一時見合わせ、ご迷惑をおかけしましたこととお詫び申し上げます。派遣数は147箇所(のべ)、派遣時間は177時間(のべ)、12言語になっています。(3月25日現在)ちなみに、昨年度は209箇所(のべ)、284時間(のべ)、13言語でした。学校現場からは、「保護者に寄り添いながら親身にかかわってくださったことで、安心感が生まれている。是非、今後も来ていただきたい。」「保護者からの要望や質問を正確に把握し、今後の進路指導や教育活動に活かすことができた。」「普段の会話では伝わりにくい内容も、スムーズにコミュニケーションがとれた。」など、多くの感謝の言葉をいただいています。引き続き来年度もこの事業を児童生徒の支援のためにご活用ください。

Information



★センター所蔵資料の展示を行いました

3月1日(金)から28日(木)までの4週間、神戸市営地下鉄県庁前駅のショールームにセンター所蔵の資料を展示しています。スペースの都合上、民族衣装、



民族楽器などごくごく一部を展示しているだけです。通勤・通学で行き交う人々の中には足を止めて興味深く見入る方もおられるようです。是非一度、近くにお越しの際は、ご覧いただければと思います。

センターには世界各国の資料がたくさんあります。子ども多文化共生教育に役立つ書籍などもあります。貸し出しもしていますので、是非ご活用ください。また民族衣装、世界各地の楽器、玩具などお持ちでしたらセンターに寄付をお願いします。

☆民族楽器の紹介 フルス(中国)



根元にひょうたんがついていることから、ひょうたん笛ともいいます。リードがあり、音色はハーモニカ、オルガン、ピアノと似ています。一般的に、中央の太い1本の竹管とその両脇の2本の細い竹管からなり、中央の竹管は旋律を奏でる主管で、穴が表に6個、裏に2個開いています。日本のリコーダーに似ています。細い竹管は持続音を奏でるためにあります。ひょうたんを取り付けられているのは、多くの管を一度に口にくわえて吹く不便さを解消するためです。ひょうたんは女性を表し、竹は男性を表すともいわれています。おもしろい形をした楽器ですね。

子ども多文化共生センター 芦屋市新浜町1-2

TEL: 0797-35-4537 FAX: 0797-35-4538 E-mail: mc-center@hyogo-c.ed.jp

ホームページから様々な情報を発信しています。 <http://www.hyogo-c.ed.jp/~mc-center/>

外国人児童生徒の支援、子ども多文化共生教育に関わることなどについて、お気軽にご相談ください。



研修会やイベントの情報をTwitterで紹介してるよ。

センターのHPからも見に来てね! (@hyogo_mc_center)

https://twitter.com/hyogo_mc_center



来年度も子ども多文化共生センターをよろしくお願いいたします。